



■2009年9月のマンスリーNEWS

■9月のアークル

逆境はいろいろなことを教えてくれる

今年の夏はひどい目あった飲料業界です。7月の半ばに梅雨明け宣言がなされ、今年は例年よりも梅雨明けが早い、“今年の夏はいけそうだ！”と思ったのつかの間、その後ほとんど、暑い夏を味わうことなく、お盆休みに突入というのが今年の夏でした。飲料業界はもちろんのこと、あちこちから悲鳴が聞こえた夏でした。

当社も8月期は去年の売上げには届きませんでしたが、よく検証してみるとルート別には売上げの良し悪しがはっきりした月でした。そこで理由をはっきりさせなければなりません。営業マンの個々の技量うんぬんかんぬんではなく、どうしたら売上げが取れる自販機が出来るかという問題です。

私達は、昨年からのテーマに長い間取り組んできました。この夏の経験がその答えをくれたような気がするのです。つまり逆境がその答えを明確にしてくれたというのが本音です。そういう意味ではこの逆境は当社にとってありがたいものだったのかもしれない。

魅力のある自販機とはどんな自販機？

私達は今まで、売り切れを”最大の悪”として捉えていました。売り切れを出したらダメ！売り切れが出ないように、売れ筋商品はダブらそう！このような活動は頻繁に行っていました。売れ筋商品は季節によって変わります。特に夏ともなれば、コーヒー以外の商品が売れてくるのは当然のことです。

実はこの”売り切れを悪”と見たのが大きな失敗でした。それによって極端に商品アイテムが少ない自販機が出来てしまいました。商品アイテムが少ないと管理する側は非常に楽になります。しかし見た目も含め魅力のある自販機とは言えなくなってしまうのです。そうすると知らず知らずにその自販機からお客さんが離れていってしまうのです。

そんな自販機よりも、多少単品切れの売り切れがあっても、バラエティーに富んだ自販機のほうが魅力的であるというのが結論なのです。

もっと言えば、単品切れを恐れて商品をダブらすのはよほどの事が無い限りやってはならないということです。いかにいろいろな商品を自販機にたくさん並べ、魅力のある自販機にするか。これが1番目にくる大前提になります。その後に売り切れを出さないという事がくるのです。

ということで、今後私達が取り組むテーマが見えてきたのです。

■コラム

■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5	
1位	ダイドーブレンドコーヒー	1位	南アルプスの天然水500PET
2位	デミタスコーヒー	2位	ボス贅沢微糖



3位 富士山天然水500PET	3位 ボスレインボーマウンテン
4位 Mコーヒー樽	4位 ボスブラック
5位 朝摘み450PET	5位 ボス地中海ブレンド

やはり夏場水のPETが上位にはいってきました。

■コラム

■悲観論と危機感

元 (株) ダイヤモンド社 社長・岩

佐豊氏

私が参加している会からの送られてくるFAX情報に興味深いコメントが載っていました。私自身心に響くものがあつたので今月号で少し取り上げたいと思います。

先日のキリン・サントリーの経営統合のニュースは驚きました。なぜこのような動きになったのでしょうか？経営統合や合併は、後になって、「統合しなければよかった」「合併しなければよかった」という話がよくあります。クライスラーとベンツの失敗もありますし、一時期、熱病のように合併に走った日本の銀行や生・損保なども、今になって後悔しているところもあります。

そんなことは百も承知なのに、両者は統合の話しを進めている。社風も違う、商習慣も違う、何よりも、今日現在、第一線の営業マンは激しく戦っているのが実情です。経営の困難度からいけば、今のままでやっていくほうがはるかに無難でよいということになります。

私達が両者に学ぶべきは、「今よりも5年、10年後のために」という危機感ではないでしょうか。経営統合の話は不成立に終わるかもしれませんし統合してもうまくいかないかもしれません。しかし、両社の取引がなければ、「目先の経営の平穏無事さより、やってくるかもしれない危機への対応を優先させたトップの判断」を真似るべきではないでしょうか。「このままではダメだ」、「景気が悪いからメドがたたない」。よく聞かれる言葉です。悲観論に乗ることによって、結局、思い切った手を打たないことを正当化している人がいます。早く言えば、悲観論を利用して言い訳をしていることになります。

「このままではダメだ」、「景気が悪いからメドがたたない」。よく聞かれる言葉です。悲観論に乗ることによって、結局、思い切った手を打つ事が出来ない。「あのキリン、サントリーですら、5年、10年先の危機を考えて、困難度で言えば、最もハードルの高い（社内の過半数、大多数は反対する）テーマに、トップとして取組む。まして、キリンとサントリーほど強くない我が社は・・・」ということではないでしょうか。

景気が回復しない、日本経済の浮上は当面考えられない、消費者は冷たい、お客さんが来ない、地域経済は最悪。マスコミのこんな論調に乗って、こんな時期になっても、こんなことを皆で話しているのは、冷たく言えば、悲観論病と考えたほうがよいようです。

本当の危機は、この悲観論を言い訳にして、会社が生まれ変わるような戦略を打ち出せない自分にあると思うしかありません。行動あるのみです。動けば具体的なテーマが見えてきます。

悲観論病から危機感をバネにして、企業と経営の作り直しを始める。これが大切です。

本当にうなずけるコメントです。人は良い時は動かないのは当然ですが、悪くなっても動けない人がたくさんいるのは事実です。

私の友人のK社長は2年前に会社が倒産寸前まで追い込まれました。K社長はそのとき思い切った決断をされました。社員さんはすべて辞めてもらい、業務のすべてを外注にし、売り掛けのお客様をすべて止め現金のみお客様を残したのです。そして会社の資産はすべて処分し、思い切ったフロー経営に転換を図りました。現在は銀行借入も一切なく見事に復活しています。

先日、静岡の同業者F社のK社長にある会合でお会いしました。F社は1年前に後継者の問題などで大手飲料メーカーに自社株を売却しました。前は経営に対してあまりタッチしていなかった社長（現在でも社長はやっています）も、今回お会いしたときは、やる気と自信に満ち溢れ、ハツラツとされていました。大手飲料メーカーの後ろ盾で経営に前向きになった様子が手にとるようにわかりました。

これら2つ事例の共通点は「チェンジ」です。自ら大きなチェンジを図った両社長の決断でした。

皆さんはダイードリンコが全国の日本の祭りをサポートしているのをご存知でしたか？

ダイードリンコは、“Dynamic Do”の企業スローガンのもと、全国各地に伝わる祭りを応援し続けているのです。祭りを通じて地域の絆づくり、活性化に役立ちたい、というのが始まりだそうで、その活動は、今年で7年目を迎えました。

そこで、今回は実際にダイードリンコさんの計らいで、徳島・阿波踊りに実際に参加させていただきました。そのレポートをまとめてみました。



今回参加させていただいたのは、8/15最終日。

今現在阿波踊りは日本全国各地で行われています。有名なのはやはり、東京高円寺の阿波踊りだと思います。この周辺では開成町で毎年9月に開催されています。

その中で元祖阿波踊りはやはり徳島ということになります。

阿波踊りは“連”というグループで踊ります。連とは同好の士や企業大学団体等の単位で結成され、踊り子と鳴り物（三味線、太鼓、横笛など）で構成されるのです。連の規模は様々で30～500人程度まであり、技量練達した同好連を「有名連」と呼ばれます。

またスポンサーの企業もタレントを出演させ、ゲストと共に企業連を組んで参加する仕組みになっています。ちなみに今年は23社26名のタレントが出演していました。飲料業界では、ダイード、サントリー、アサヒなどが出ていました。

演舞場は市内に7ヶ所の設けられます。その中で4ヶ所が有料演舞場と言って、大きな栈敷席が両脇に作られ観客はお金を払って見るシステムになっています。残りの3ヶ所は無料で公道が演舞場となり、両脇歩道は“人でごったがえす様相”となります。

“踊る阿保に見る阿保、同じ阿保なら踊らにゃそんそん”とあるように、阿波踊りは、絶対に参加しなければ楽しさは半減です。そこで踊りに参加するためには、当日”にわか連”に参加するのがベストだと思います。

18：30と20：30に市民広場と東新町商店街に集合するとそこで体験することが出来ます。もちろん踊りなど未経験でOKです。有名連のレッスンとリハーサルをした後に演舞場に繰り出すとこととなります。もちろん参加は無料です。

今回一番最初は文化センターでの有名連の演舞見学です。4つの連を見学しましたが、非常に興味深いのは各連とも、阿波踊りというカテゴリーの中で非常にオリジナル性を出しているという点です。今回本番に一緒踊っていただいた、“菊水連”の踊りもその場で見学しましたが、サンバのリズムをアレンジした感じで子供達の元気な踊りが印象的でした。

その後、一旦ホテルに戻り本番に

備えての練習です。教えてくれるのはもちろん一緒に踊る”菊水連”の方々です。つまり私達はダイドードリンコの企業連として菊水連さんと一緒に、一番大きな有料演舞場で踊るとのことなのです。

ダイドードリンコさんの芸能人(?)はエジプト考古学で有名な吉村作治教授です。吉村教授はダイドードリンコと一緒に全国の祭りに参加しているようで、日本の祭り、伝統文化を守っていく大切を今回の挨拶で力説されていました。またゲストとしていまや飛ぶ鳥を落とす勢いの〇トリ（家具チェーン）の社長夫婦も参加していました。

約1時間あまりの練習の後、いよいよ街に繰り出します。女性は伝統的な浴衣・花笠・下駄スタイル。男性はハッピー、足袋スタイルで参加します。

私も含め、初参加のメンバー達はやや緊張を隠せない様子です。



ダイドードリンコ 高松社長



吉村教授

街に出るとものすごい人の波です。その中でまた30分ほど練習をします。ホテルの中ではないので、ギャラリーが大勢います。最初はやや緊張していた私達も次第に”阿保”になっていきます。かなり盛り上がってきたところでいよいよ本番を迎えます。場所は藍場浜演舞場といって演舞場の中では最大かつ、最長の演舞場での踊りとなります。

眩いばかりのライトに照らされて、約200mの演舞場を30分ほど踊ったのでしょうか。踊ったあとはなんともいえない快感です。

その後は、栈敷席で他の連の見学。特に印象的だったのは大学生の踊りです。若さあふれるアクティブな感じと、オリジナリティは観客から大きな拍手が沸き起こっていました。

阿波踊りは、大学生など地元を離れ都会に出て行った人などが、この時期だけ地元に戻りこの祭りに参加するというような、ユーターンの効果があるそうです。地方の時代などと叫ばれているにもかかわらず、地方は少子高齢化で経済が疲弊しています。祭りをキーワードに地方活性化をするのは非常に面白いのではないかと感じました。祭りはやはり見るだけでなく参加しないと痛感させられた阿波踊りでした。

皆さんも来年行かれてみたらいかかでしょうか。



すだち連・後ろからミスすだちが観客にすだちを

■コラム

■自民党に鉄槌が!

2009・衆院選を振り返って

国民の怒り、審判が自民党に下ったという感じでしょうか？政権交代、これが国民の総意ということになりました。

不正には断固反対する！！これが今の国民の声なのです。社会保険庁は国民から集めた年金を他に流用していました。民主党はこの年金を取り戻してくれるでしょう。ETCを作って天下り先を確保していた国土交通省の悪役人達。高速道路が無料になったら彼らも排除です。住専関連の〇〇機構などの公益法人などもまだ残っています。それも廃止にしてくれるでしょう。

国民の税金は、国民全員のために使うのが、当たり前なのに官僚の不正、無駄使い、のお金になっていたのです。それらを許してきた与党に責任があるのです。また利権に結びついているような議員も退場です。

私達は今度の選挙で、”自分達で変えられるんだ”と実感したのではないのでしょうか。

舛添厚生労働大臣は「不正した奴は、刑務所に入れる」といっていましたが、誰か刑務所に入ったのでしょうか？結局年金についても何ら進まなかったのが結果でした。そして最後はインフルエンザでマスコミに出でバカ騒ぎと失態続きでしたね。

但し、民主党は、これからが大変です。国民の不正に対する断固とした対処を行わないと、次の総選挙では、再び、下野ということになるのですから。

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは8名が更新中です。

・所長のブログ (小田原H所長)

NEW・マネージャーの部屋へ

・情報最前線 (海老名K所長)

NEW・つんつるてんSTORY

・販促課オオクワ80mm

・産地直送！新鮮ネタ (海老名Nチーフ)

NEW・パソオタの独り言 (パンドラの箱を開けて最後に出てくるのは・・・)

徳島・阿波踊りの帰りに、香川さぬきうどんを食べに行ききました。ここ数年、TVや雑誌でたくさん取り上げられている、「やまうち」です。山の中にもかわらず、案の定大行列でした。



今月は以上です。又、来月号も宜しくお願ひします。

■2008年度のマンスリーNEWS

➡	2009.08	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.07	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.06	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.05	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.04	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.03	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.02	アークル	マンスリーNEWS
➡	2009.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ

➡	最新	マンスリーNEWSトップページ
➡	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	番外編	マンスリーレポート番外編

